

令和7年度

熊野町学校給食に関するアンケート
(教職員向け)の結果について
【公表用】

令和8年2月

熊野町教育委員会

【アンケートの概要】

- (1) 目的：食缶方式の給食に関する各学校の運用状況や工夫、課題等を把握し、学校間での情報共有を行うとともに、学校と教育委員会が連携して今後の給食運営の充実につなげる
- (2) 対象：町立小中学校 教職員（会計年度任用職員等を含む）
- (3) 実施期間：令和8年2月2日～2月10日
- (4) 実施方法：Google フォーム
- (5) 回答状況：回答数：139人 回答率：61.8%
※回答率は、令和7年5月1日時点の教職員調査票（225人）による
- (6) アンケート項目

教職員
1 在籍校（複数校に勤務している場合は拠点校を選択してください）
2 役職・担務等
3 現在、食缶方式の給食の運用は、全体としてどのような状況にあると感じますか。
4 特に調整や工夫が必要と感じている点はどのようなことですか？（複数選択可）
5 食缶方式移行後の児童生徒の様子について、あてはまるものを選んでください。（複数選択可）
6 食缶方式への移行により教職員の負担感はどう変化しましたか？
6-2 「負担が増えている」と感じる場合、主な理由を選んでください。（複数選択可）
7 給食運用にあたり、現在行っている工夫はありますか？（複数選択可）
8 上記で選んだ工夫について、具体的な内容を教えてください。
9 給食運用にあたり、改善が必要と感じている点を教えてください。
10 特に、他校でも参考になりそうな工夫、うまくいっていると思われる取組があれば教えてください。
11 今後の給食運営をより良くするため、学校と教育委員会が取り組むべきことがあれば教えてください。

【目次】

1 アンケート結果の分析及び今後に向けて.....	1
2 アンケート結果.....	2

1 アンケート結果の分析及び今後に向けて

現在の食缶方式の給食運用については、概ね順調であるとの回答が多いことに加え、児童生徒の中に給食への関心が高まっているなどの変化や、配膳への協力などの教育的効果が表れています。一方で、それらを支える教職員の配膳や、準備・片付けの時間配分に対する負担が増加しており、今後は、献立の質・量の安定に加え、学校現場の負担を軽減するための時間設定の見直しや、適切な食具の選定等の検討などが課題となります。

① 運用面全体の状況

現在の食缶方式の給食運用について、全体の86.4%（「安定している」43.2%、「概ね安定している」43.2%）の教職員が、運用は概ね順調であると回答しています。学校種別では、小学校で87.6%、中学校で83.4%と大きな差はなく、新しい方式による給食運用が定着しつつあることが伺えます。

② 児童生徒の変化と教育的効果

食缶方式の給食への移行により、全体の60.4%の教職員が「給食への関心が高まっている」と感じており、また、56.8%の教職員が「配膳への協力が見られる」と感じており、学校種別で差が生じているものの、児童生徒に好影響を与えていると捉えられています。

③ 教職員の負担感と課題

全体の71.9%の教職員が「負担が増えている」と感じており、その主な理由は「配膳」が55.4%、時間配分（準備・食事・片付け）が49.6%となっています。日々の運用においては、次のような課題が上がっています。

量の不足	「おかずの量が極端に少ない時がある」「クラスによって量にムラがある」といった声が多く上がっており、特に主菜（唐揚げが小さい、肉や魚が少ないなど）の充実を求める声が寄せられています。
時間の不足	回収時間が早く、児童生徒や教職員の食事時間が確保できないといった声が上がっています。
食器・備品の改善	「スプーンが大きすぎる」「箸とスプーンの両方が必要な献立がある」といった献立と食具の不一致や、配膳道具の使いやすいものへの変更などが指摘されています。
アレルギー対応の緊張感	配膳ミスが命に関わるため、複数人での確認など細心の注意を払っており、精神的な負担が大きいという意見が上がっています。

④ 給食運用の工夫

多くの教職員が、円滑な給食運用のための工夫を行っています。

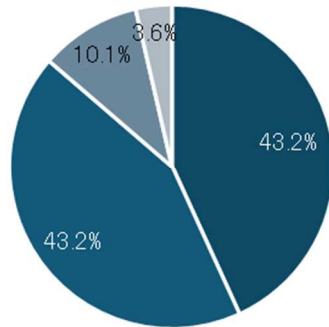
役割分担の明確化	「注ぐ人」「配る人」の動線を明確に分けたり、ペア制やローテーション制を採用したりするなど、一人一役を割り当てることで責任感を持たせる工夫をしています。
時間の可視化	配膳時間を記録して「タイムアタック」形式にしたり、折れ線グラフで見える化したりして、児童生徒が自発的に時間を意識できるよう工夫しています。
事前の量調整	配膳前に自分の食べられる量に調整させることで、無理なく完食を目指せる環境を作るよう工夫しています。
アレルギー対応の徹底	複数人での確認、専用カレンダーでのチェック、該当児童を教職員が直接把握するなど、ミスを防ぐ体制を構築するよう工夫しています。
衛生習慣の励行	手洗いうがいの徹底に加え、配膳台のアルコール消毒や、全員での「給食着チェック」を行うよう工夫しています。

2 アンケート結果

① 現在、食缶方式の給食の運用は、全体としてどのような状況にあると感じますか。(単一回答)

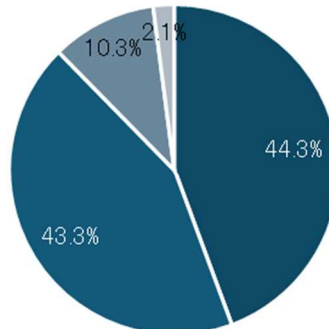
全体では、86.3%の教職員が「安定して運用できている」「概ね安定して運用できている」と回答しています。

3 現在、食缶方式の給食の運用は、全体としてどのような状況にあると感じますか。【全体】



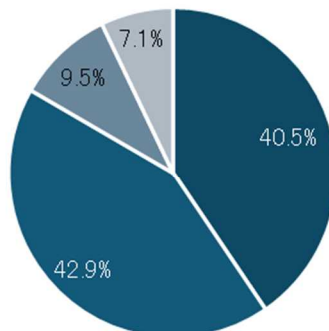
- 安定して運用できている
- 概ね安定して運用できている
- 調整や工夫が必要な点がある
- 課題が多い

3 現在、食缶方式の給食の運用は、全体としてどのような状況にあると感じますか。【小学校】



- 安定して運用できている
- 概ね安定して運用できている
- 調整や工夫が必要な点がある
- 課題が多い

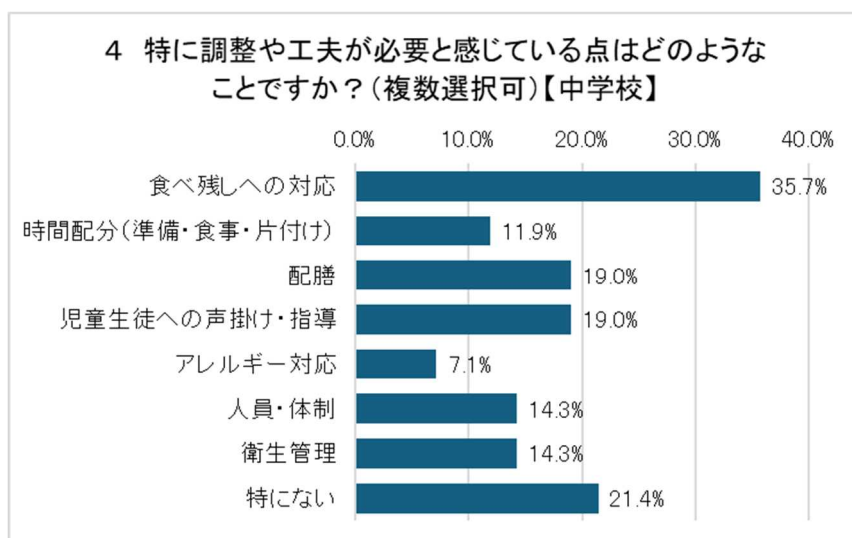
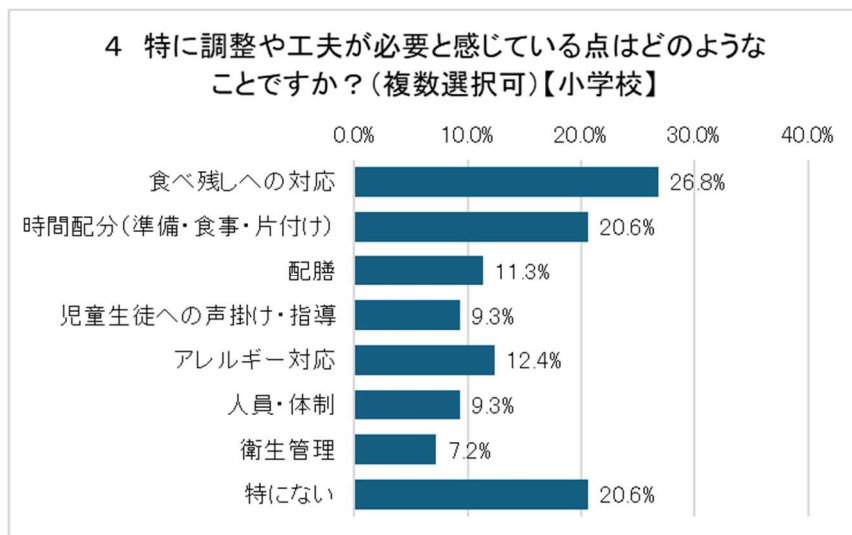
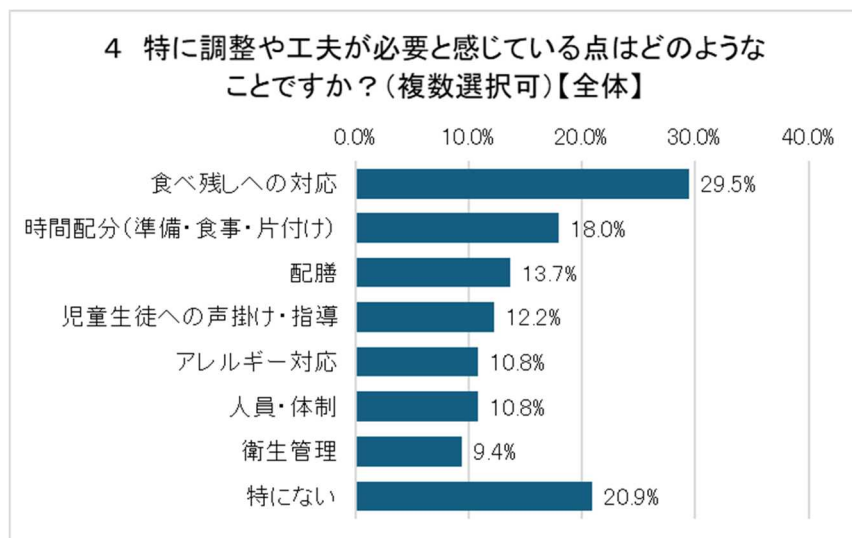
3 現在、食缶方式の給食の運用は、全体としてどのような状況にあると感じますか。【中学校】



- 安定して運用できている
- 概ね安定して運用できている
- 調整や工夫が必要な点がある
- 課題が多い

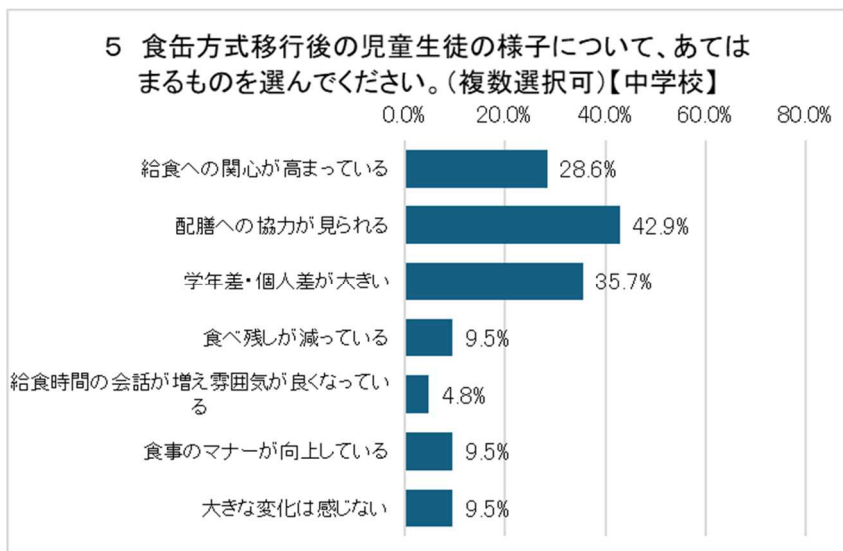
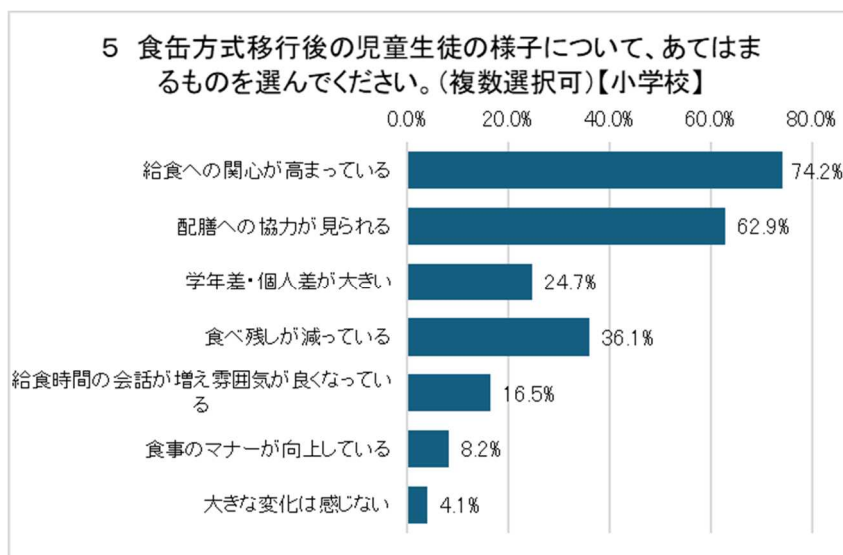
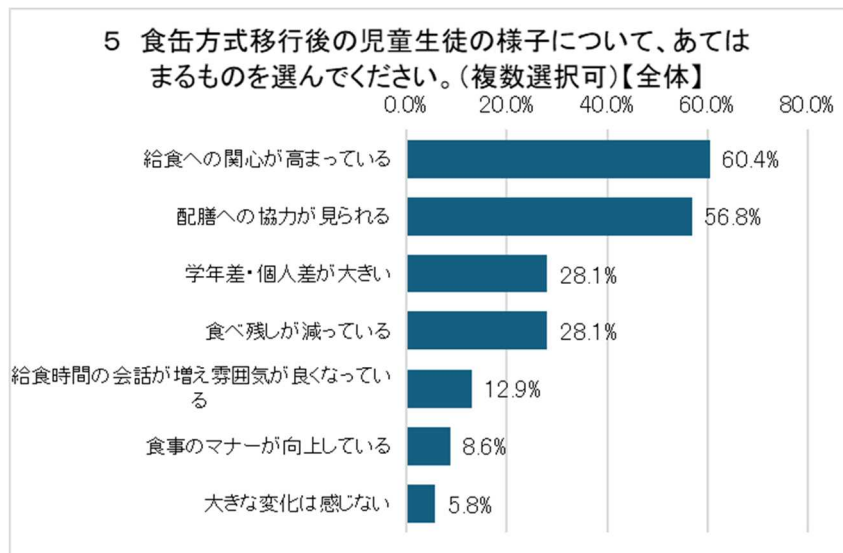
② 特に調整や工夫が必要と感じている点はどのようなことですか？（複数回答）

全体では、「食べ残しへの対応」が29.5%と最も高く、続いて、「時間配分」が18.0%と高くなっています。中学校では、「配膳」や「児童生徒への声掛け・指導」が小学校と比較して高くなっています。



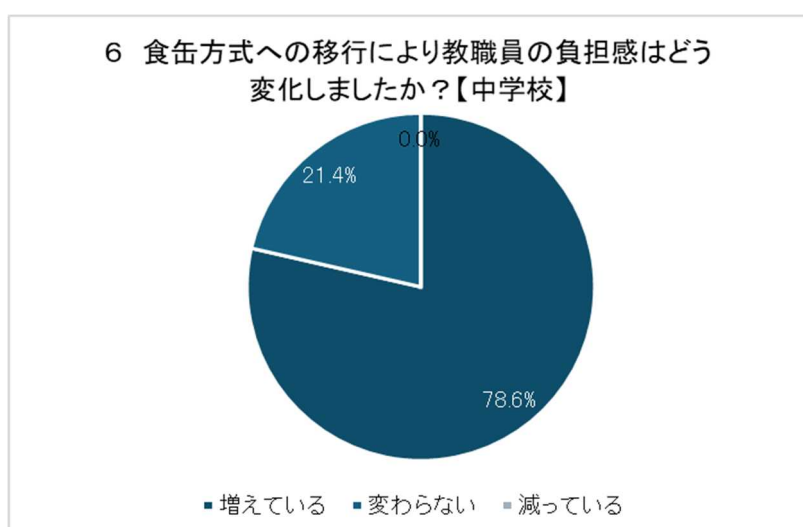
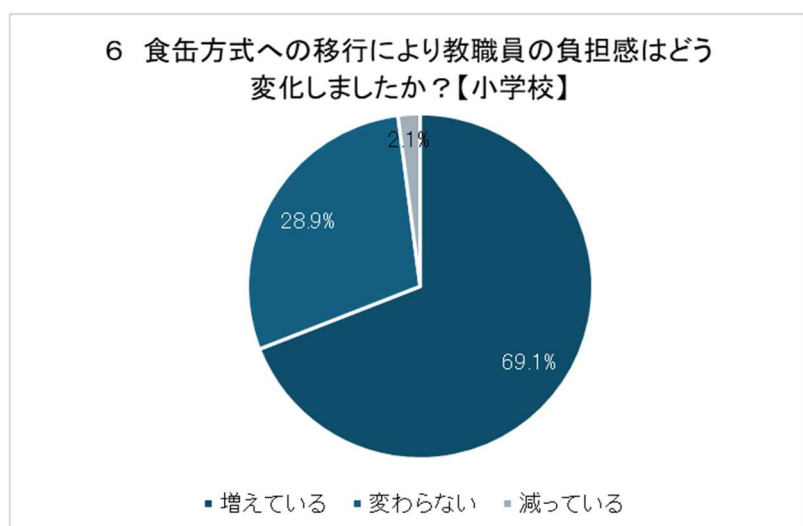
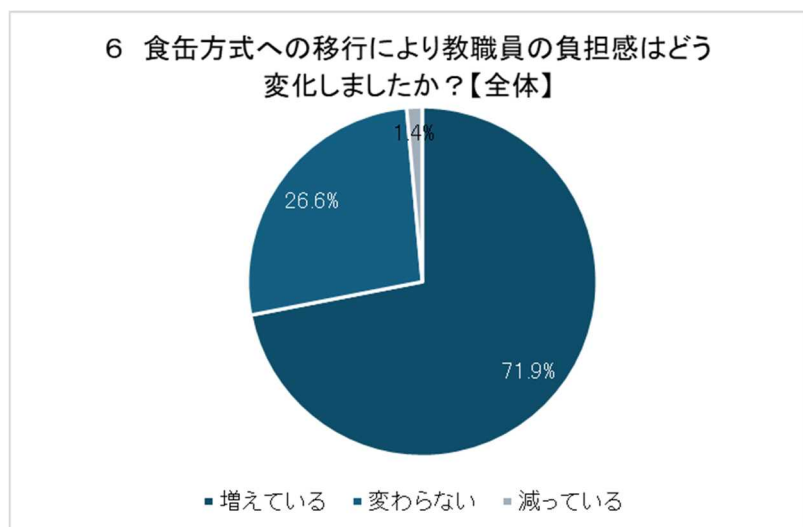
③ 食缶方式移行後の児童生徒の様子について、あてはまるものを選んでください。(複数回答)

全体では、「給食への関心が高まっている」が60.4%と最も高く、続いて、「配膳への協力が見られる」が56.8%と高くなっています。この2つの項目では、小学校の回答が中学校と比較して大幅に高くなっています。



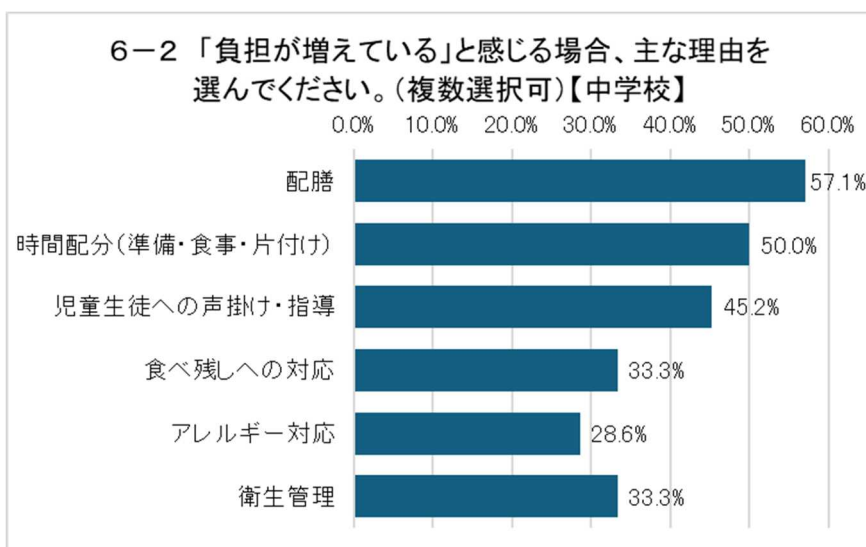
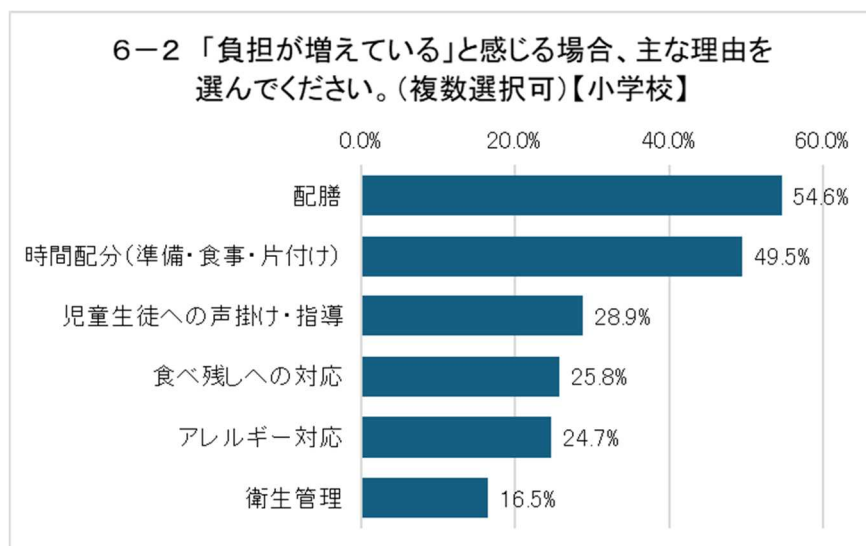
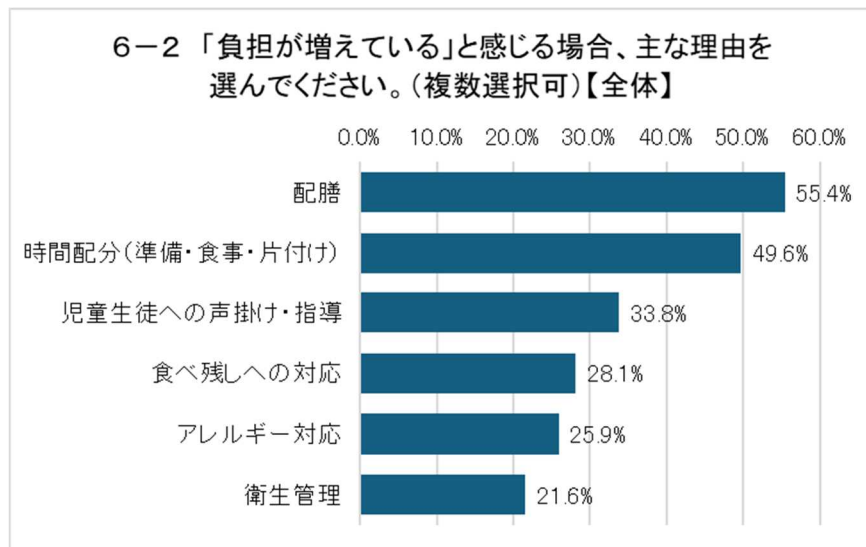
④ 食缶方式への移行により教職員の負担感はどう変化しましたか？（単一回答）

全体では、71.9%の教職員が「増えている」と回答し、26.6%の教職員が「変わらない」と回答しています。中学校では、78.6%の教職員が「増えている」と回答しており、小学校と比較して高くなっています。



⑤ 「負担が増えている」と感じる場合、主な理由を選んでください。(複数回答)

全体では、「配膳」が55.4%と最も高く、続いて、「時間配分」が49.6%と高くなっています。中学校では、「児童生徒への声掛け・指導」や「衛生管理」が小学校と比較して高くなっています。



⑥ 給食運用にあたり、現在行っている工夫はありますか？（複数回答）

全体では、「役割分担の工夫」が49.6%と最も高く、続いて、「配膳方法の工夫」が41.0%、「食べ残しを減らす工夫」が41.2%と高くなっています。

